

腐った社会秩序の魅力

—マニラのスラムから現代社会を考える—

日時：2018年7月11日（水）14時30分～16時30分

場所：山口大学吉田キャンパス 人文学部棟 第3講義室

講師：日下 渉 氏

主催：山口大学人文学部異文化交流研究施設

お問い合わせ：083-933-5242（桑畑研究室）

※入場無料、事前申し込み不要です。

※自動車でお越しの場合は、警備員に講演会参加の旨をお伝えください。



講師：日下 渉 氏

名古屋大学大学院国際開発研究科准教授。専門は政治学、フィリピン地域研究。博士（比較社会文化）。著書に『反市民の政治学』（法政大学出版局、2013年）、『フィリピンを知るための64章』（共著。明石書店、2016年）、『21世紀東南アジアの強権政治』（共著。明石書店、2018年）など。訳書に、ジェームズ・C.スコット『実践 日々のアナキズム』（共訳。岩波書店、2017年）など。

大学生時代にワークキャンプでフィリピンに行ったことがきっかけでフィリピン地域研究を始める。スラムで暮らす人々をはじめとした、道徳的に周縁化された人々が相互的に社会秩序を作り出す契機について研究している。

講演概要

マニラの貧困層は貧しく、失業、病気、洪水、火事などのリスクによって不安定な生活を強いられる一方、誰も飢えたり孤独死したりしません。その理由は、法律や市民的道徳を破ってでも互いの生活を守ることを優先する「腐った社会秩序」にあります。しかし、都市開発に伴うスラムの強制撤去が相次ぐと同時に、都市貧困層に正しい市民的道徳を教えようという国家とNGOの介入が盛んになってきました。本報告では、マニラのスラムで争われている社会秩序をめぐる闘争を事例に、現代社会の課題を検討してみたいと思います。